

イチゴ農家へ意気込み

JA研修生3人 知事に成果報告

JA全農岐阜が運営するいちご新規就農者研修所の8期生として、イチゴの生産や農業経営について学ぶ研修生3人が9日、県庁を訪れ、古田肇知事に研修の成果を報告した。

訪問したのは伊藤直弥さん(43)＝大垣市＝、高井光典さん(48)＝関市＝、所友祐さん(25)＝揖斐郡大野町＝の3人。昨年4月から今月まで14カ月間の研修を受けている。

県内ではイチゴ農家も高齢化や担い手不足が課題となっている。JA全農岐阜は2008年度に研修所を開設して生産者を育成。これまで27人の卒業生が新規就農した。

「濃姫」「美濃娘」

の2種を持参した3人は、脱サラしてイチゴ農家を志した理由や栽培方法を説明し「味にこだわりの収量を拡大できるようにしたい」「地域に根差して生産したい」と意気込みを



古田肇知事(左)に研修成果を報告するJA全農岐阜いちご新規就農者研修所の研修生ら＝県庁

(根尾文悟)

語った。
味わった古田知事は「ジューシーでおいしい。岐阜のイチゴを